

# Newsletter for JADR

## I. IADR San Diego 大会を終えて

JADR会長 村上 伸也

(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座口腔治療学分野)

今回の東北地方を中心とした大震災で被災された方々には、心よりお見舞いを申し上げます。誰もがかつて経験したことの無い天災に、そしてそれに引き続く原子力発電所の災害に、我々はすっかり言葉を失ってしまいました。未だ多くの方々が、様々な困難に立ち向かっておられることを思うと、一日も早い復興を心から祈らずにはおられません。

今回の News Letter は、本年3月15日頃から米国 San Diego にて開催された IADR 学術大会の様を中心に構成されています。しかしながら、大震災の直後であったため、様々な理由で参加を断念せざるを得なかった多くの JADR 会員の先生方がおられたのではないのでしょうか。私は、3月14日に渡米を果たしましたが、現地では多くの友人・知人からお悔やみの言葉と共に、日本の現状に関する質問を数多く受けることとなりました。テレビでも、CNN 等の headline news にて連日、そして終日、日本の現状を伝えるニュースが報道されておりました。通常、observer を含めて JADR からは4名の者が IADR 評議会に出席しているのですが、本年度は私一人の参加となり、そのこと一つをとっても、ただならぬことが日本で起こってしまったことを感じさせました。評議会の冒頭には、ブラジル出身の Navarro 会長より、お悔やみの言葉が述べられ「私は、母国にも多くの日本人の知人がおり、日本人の勤勉さ・優秀さをよく知っている。日本が今回の震災からも必ず復興されることを信じている。」と力強くおっしゃっていただきました。会議の合間に、事務局長の Fox 氏に「今回の震災で欠席を余儀なくされ、かつ発表予定者であった JADR 会員に対し、2年間の学会発表停止のペナルティを科さないように取り扱ってほしい」旨、お願いをすると、「その件は既に決定している。」と返答してくれたことに加えて、「事前登録費の返還も現在検討している。」とのコメントをいただきました（JADR の電子メール配信でもお伝えしましたように、その決定は IADR ホームページ上で告知されており、現在もその手続きを受け付けております。該当される先生で、まだご返答されていない先生がおられましたら、どうかホームページをご確認下さい。http://wwwsoc.nii.ac.jp/jadr/index.html）。震災後5日以内の迅速な対応に心を打たれました。

このように、日本からの参加者が明らかに少ないという、JADR 会員にとっていつもと違う学術大会の幕開けとなりましたが、そのような状況の中でも、大阪歯科大学の大浦 清先生をはじめとして JADR 会員の先生が様々な賞を受賞され、また各セッションでは JADR 会員による高レベルの研究成果

が報告されました。今の日本にとって、日本の歯学研究の activity を国際舞台で披露することが、私たちに出来る大切なことの一つなのではないかと感じさせられました。

今回の学術大会が国際学会のデビューとなった JADR 会員の方もおられたでしょう。初の oral presentation で大いに緊張された先生もおられたかもしれません。会場で出会った新しい知人との discussion に興奮を覚えた先生もおられるでしょう。国際会議での様々な経験は、特に若い研究者にとって大変貴重です。その経験をされたからこそ、またあの舞台に立って発表したいと思われたのではないのでしょうか。今度も、あるいは今度こそ、と思われたのではないのでしょうか。「研究」という道を選んだからこそ得られる記憶に残る経験です。その中の何人かの方々は数年後には mentor として研究指導をしておられるかもしれません。学問の将来を支えるのは研究です。そして我々は歯科医療という、一般の方々にも理解して頂きやすい研究の出口を持っています。研究の motivation は人それぞれですが、私たちの研究が「口」の仕組みや働きを、そして「口」の病気をよりよく知ることにつながることは間違いなく、そのことは将来の歯科医療そのものを変えていく真の力になります。5年後、10年後の歯科医学を、そして歯科医療を、できれば日本発の研究で変えていっていただきたいと思います（いつも1番である必要はないのですが、最初から2番手、3番手を狙った研究などあり得ないのですから）。

今年の JADR の学術大会は高田隆大会長のもと、広島で開催されます。今年も、昨年からはじめたとおり、公用語を英語として大会が催されます。現 IADR 会長である Rekow 教授には特別講演のみならず、JADR からの Hatton Award 候補者の発表に対する質疑応答にも参加していただき、候補者を encourage していただく予定です。国際舞台への gateway の一つとして、多くの JADR 会員の先生方にご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

また、JADR 会員の先生方にとって、いっそう開かれた JADR の運営を目指しております。お気づきの点がありましたら、どうか事務局（TEL: 075-468-8772）にご連絡をお願いいたします。今後とも、会員の先生方の変わらぬご支援をお願いして、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

## Ⅱ. 第89回IADR学術大会 (San Diego) 大会報告

### 1. 2011 IADR Distinguished Scientist Award (Pharmacology/ Therapeutics/ Toxicology Research Award) を受賞して

大浦 清

(大阪歯科大学薬理学講座)

まず、はじめに今回の東日本大震災におきまして被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。想像を絶する津波による多数の犠牲者と福島原発事故による放射能汚染、さらには日常生活に必要な物資の不足で、心身ともに疲弊されておられることと存じます。また、日々明らかになる甚大な被害、福島原発、余震等、まだまだ予断を許す状況ではないかと存じますが、1日も早い復旧を祈念いたしております。私も16年前に、神戸市の須磨区に住んでおりまして、阪神淡路大震災を経験しており、被災された皆様のご心労をお察しいたします。このような折に誠に恐縮でございますが、JADR事務局から受賞について報告するようにとのことですので、ご報告いたします。

2010年のクリスマスにIADR事務局から、私が2011年のIADR Distinguished Scientist Award – Pharmacology/ Therapeutics/ Toxicology Research Awardの受賞者に選ばれたとの通知がe-mailで届きました。2011年3月16日アメリカ、サンディエゴで開催される第89回IADR総会のオープニングセレモニーで授与するとのことでした。Formal letterは2011年1月にExecutive Director Christopher H. Foxから送ると付け加えられておりました。また、総会の前にAwardについてはpress releaseするので、それまでは所属機関に公表しないようお願いが記載されていました。

2011年、私どもの大阪歯科大学は創立100周年をむかえます。また、私も教授に就任してちょうど20年目にあたり、この記念すべき年にこのような素晴らしい賞を頂けるというのは非常に名誉であり光栄であります。IADR Distinguished Scientist Awardには16部門の賞があり、本賞を授与される最初の日本人ということもありこの上ない喜びであります。サンディエゴの式典会場では最前列に席を与えられ、Dr. Maria Fidela de Lima Navarro IADR会長から壇上で素晴らしい受賞ブランク（楯）を戴きました。黒田IADR元会長をはじめ出席していた多くのJADRの先生方、また、旧知のDr. Taubman, Dr. Dowesからもお祝いの言葉を頂戴いたしました。

私は1975年に大阪歯科大学大学院に入学して以来、今年で36年の研究歴になりますが、私の最初の研究発表は大学院2年生の1976年にIADR日本部会（現JADR）で行いました。初めて英文抄録を作成し、発表時は大西正男先生、秋吉正豊先生から質問されたのを今でも覚えております。当時は発表会場が1会場で、質問時間もあまり制限のない状態でした。

この時以来、IADRにおいて数多くの研究発表を行ってきております。

今回の私の受賞理由は、「Dr. Ohuraは、1975年より一貫して薬理学研究者として、局所麻酔薬、抗炎症薬、化学療法薬などの薬物およびウニ毒と白血球の遊走能 (Chemotaxis)、貪食能 (Phagocytosis) および活性酸素産生能 ( $H_2O_2$ ,  $O_2^-$ , NO) など白血球機能を中心とした生体防御機構との関連性に関する研究を進めてきている。また、エイズ (AIDS)、慢性関節リウマチ (RA)、歯周疾患、口腔癌などの各種疾患とサイトカインとの関連性を調べ、有効な治療方法を検討するとともに、歯周疾患およびインプラント治療における遺伝子診断の可能性を検討し、個人個人に合ったオーダーメイド治療の確立に貢献してきている。」とのIADR事務局の公式発表です。それらに関する研究論文は150以上発表してきています。大学院の時以来、一貫して創傷治癒 (wound healing) の研究を行ってきており、現在の再生医療にもつながるものと考えております。1983年から1985年はアメリカのNIDR (現NIDCR)で当時発見されていましたAIDS患者の白血球機能の研究にたずさわらせていただき、1984年にはJ Clinical Investigationにも共同で発表いたしました (このまいくと将来ノーベル賞も夢ではないと当時は思いましたがなかなかそううまくはいきません)。アメリカの2年間はほとんど休まずいろんなテクニックを学びながら研究をしましたが、その積み重ねが今日に結びついたのではないかと考えております。

日本の若い研究者は、積極的に英文で論文を発表し、自信をもって、もっと国際舞台で多に自分をアピールしていただきたいと願っております。



受賞式において Dr. Maria Fidela de Lima Navarro IADR 会長から受賞



受賞ブランク

## 2. IADR/Heraeus Travel Award を受賞して

宮嶋 宏行  
 (大阪大学大学院歯学研究科  
 顎口腔機能再建学講座 (歯科理工学教室))

この度、2011年3月16～19日に開催されました89th General Session and Exhibition of the IADR (San Diego, USA)におきまして、IADR/Heraeus Travel Awardを受賞させていただきました。このような賞を頂きまして大変光栄に思います。本賞は、IADRとHeraeus社の後援のもとで設けられたもので、歯科材料学部門において斬新な研究手法の探索、ならびに新規材料の開発に携わる若手研究者に対して贈られる賞です。受賞発表はIADR開会式で行われ、当日の夕方からはバルボアパーク内にある会場で受賞レセプションに招待して頂きました。世界中の若手研究者の方々と交流することができ、非常に貴重な一日を過ごすことが出来ました。

今回受賞対象となった研究テーマは、基材の堅さが唾液腺分岐形態形成におよぼす影響とそのメカニズムの解明についてです。生体組織の発生は特定の遺伝子発現に起因した化学的因子(増殖因子, サイトカイン)により大きく制御されていることが知られていますが、一方で、発生組織の極性決定や組織伸長などにおいて、形質液の流れなど物理的因子の影響も重要であることが近年の研究から明らかになってきています。しかし、これら物理的因子の影響に関する研究は、線虫など微小生物に関する検討が主であり、哺乳動物の発生、特に各生体組織の発生における物理的因子の影響に関する検討はほとんど行われていません。この理由として、そのような物理的因子を再現できる簡便な実験系がないことが挙げられます。その解決策として、生体親和性材料の利用に基づく*in vitro*の生体擬似的実験環境の構築を着想しました。バイオマテリアル分野で使用されている材料の多くは基本的に、細胞、組織に対する為害性が少なく、生命科学研究への応用が可能です。また、材料を使用することで、一般的な*in vivo*実験では実現できないような物理的環境を再現性良く作成可能です。本研究ではハイドロゲル材料の物性制御により、組織周囲の堅さ環境を再現し、その結果、これまで報告がほとんどされていない、唾液腺組織構成細胞の力学感知のメカニズムとそれに付随した形態形成変化の検討を進めました。物理的にデザインされたハイドロゲル材料は、生体擬似的環境を構築するうえで、非常に有用なツールであることが実証されたとともに、今後、こういった生体環境を模倣したゲル材料を培養系に応用することで、生命現象の再現、ならびに新規の生命科学的知見の獲得が期待できます。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたりご指導いただきました、大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座(歯科理工学教室)の今里聡教授、松本卓也講師に心より感謝致します。また、これまでの研究にご協力頂きました諸先生

方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

## 3. 2011 William J. Gies Award を受賞して ～ 歯学と医工学のコラボレーションによる学術連携 ～

千葉 美麗  
 (東北大学大学院歯学研究科口腔生理学分野)

このたび、荣誉ある2011 IADR/AADR William J. Gies Award (Biomaterials & Bioengineering Research Category)を受賞し、共同研究者を代表して、2011年3月16日、サンディエゴにて開催された第89回 IADR/第40回 AADR/第35回 CADR 総会の Opening Ceremony の受賞式典で授与されましたことを報告致します。また、このことは、これまでお世話になりました学内外の先生方の温かいご指導とご厚情の賜と心から感謝申し上げます。

この賞は、Journal of Dental Researchに掲載された論文の中から、その年の最優秀論文に与えられるものです。

今回受賞の対象になった論文(Periodontal gene transfer by ultrasound and nano-/microbubbles. Journal of Dental Research, Vol.88, No.11, pp.1008-1013, 2009)は、医工学研究科の小玉教授らのグループとのコラボレーションにより、歯科領域で初めて、脂質ナノバブルと低出力超音波を用いたソノポレーションにより、ラット切歯唇側歯周組織にルシフェラーゼ遺伝子とEGFP遺伝子の導入に成功したことを報告した論文です。受賞者は、陳 鋭氏(東北大学大学院医工学研究科、現(株)ライオン)、筆者、森 士朗氏(東北大学大学院歯学研究科)、福本 学氏(東北大学加齢医学研究所)、小玉哲也氏(東北大学大学院医工学研究科)です。

我々はバイオルミネセンス法を使った遺伝子発現解析により、本手法が、歯周組織で高い遺伝子発現を誘導すること、また、共焦点顕微鏡による組織学観察から、歯肉組織の細胞にEGFP遺伝子が発現することを確認しました。本遺伝子導入法は、アデノウイルスベクター、HVJベクターあるいはエレクトロポレーションなどの方法と比較して、免疫原性がなく、繰り返し投与が可能で、非侵襲的に遺伝子を局所的に導入できることから、歯科領域でより安全に応用できる方法です。現在は、歯周病や口腔癌の治療や、歯や歯槽骨などの歯周組織の再生医療など、臨床領域における新しい治療法の開発や応用を目指しています。

3月11日には東日本大震災があり、学会に辿り着くことは不可能と思われました。仙台空港は津波で流され、東北新幹線も不通となり、交通が途絶えていました。途中何度も諦めようかとも思いましたが、奇跡に導かれて開会式出席と発表を終え、またすぐに身元確認検視ボランティアのために仙台に帰るといふ強行軍を成し遂げることができました。これは多くの皆様のご支援のお陰であり、特に、この掛替えのない貴重な機会を与えて下さいました東北大学歯学研究科口腔生

理学分野の林治秀教授には心より感謝致します。

Opening Ceremony の始めに、IADR President の Dr. Maria Fidela de Lima Navarro が、特別に時間を割いて日本の震災についてのお見舞いの言葉を話され、「日本人は、intelligent で work hard だから、必ず reconstruct すると信じています」とスピーチされるのを聞いたときは、胸が熱くなり感激でいっぱいでした。

当然のようにできるはずの研究が、できなくなることがあります。失われてこそ初めて、その有難味がわかるのであり、今できることを精一杯行うことが大切なのかもしれません。今回の思い出深い受賞を励みにし、尚一層の研鑽を積み、歯科医学の発展に貢献して参りたいと思っております。



左より、IADR President の Dr. Maria Fidela de Lima Navarro、筆者、AADR President の Dr. David T Wong。

者は 17 日午前から参加し、まず 9 時 45 分からの University of Western Ontario の Dr. Lynne-Marie Postovit に よる Distinguished Lecture “Development Undone: Causes and Consequences of Tumor Cell Plasticity” を聴講した。非常に歯切れのよい話し方で、Nodal signal や Hypoxia がメラノーマや肺癌の成長、浸潤、血管形成に影響を与えるとの内容のようであったが、正直なところ専門外に筆者は話についていくのに苦労した。

続いて 10 時 45 分より行われた Symposium “Stem Cells, Reprogramming, Immunomodulation and Cancer” に参加した。日本では iPS 細胞が非常にもてはやされているが、この Symposium や IADR 全般の発表を見る限り、歯科の基礎研究分野では iPS 細胞よりもむしろ ES 細胞の方が再生研究の主流であるように感じられた。12 時 15 分より Lunch & Learning のセッションが行われ、筆者は “MicroRNA Function and Analyses” に参加した。Speaker の Lecture ももちろん有用であったが、参加者同士の情報交換も非常に重要で、筆者は他の参加者から MicroRNA の発現を抑制する Morpholino Oligo Antisense について非常に貴重な情報を得ることができた。19 日は 10 時 45 分より “Craniofacial Biology – Craniofacial Functional Morphology” のセッションで座長と演者を務めた。このセッションは口腔周囲筋関連の演題が 3 演題、上気道をふくむ顎の構造関連の 3 演題であり、内容的は異なる分野の演題が集められていた。そのためかお世辞にも活発な発表、討論が行われたとは言えない内容であった。

今回 IADR に参加した率直な感想であるが、基礎的な分野での IADR の発表は歯科基礎医学会などでの発表と比較して特にレベルが高いとは思われないが、多数の基礎と臨床の研究者が集まる機会はありませんので、その点では非常に有意義な学会だと思われる。

## 4. Craniofacial Biology 報告

山根 明

(鶴見大学歯学部物理学教室)

第 89 回 IADR General Session は 2011 年 3 月 16 日から 19 日にかけて、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ市のコンベンションセンターで開催された。筆者は大学での公務の都合で 3 月 16 日の夜、羽田よりサンディエゴへ出発した。東日本大震災の影響が強く残っており、福島第一原子力発電所も依然危機的な状況のなかでの出発であった。原発からの放射能をさけて海外に脱出しようとしているのか、子供づれの外国人が多く目立っていた。

会場となったサンディエゴコンベンションセンターは 2002 年にも IADR の会場として使用されたことがあり、サンディエゴ湾に面する大きなコンベンションセンターである。1 階で Poster Session, Exhibition が、2, 3 階で Distinguished Lecture, Oral Session, Poster Discussion Session が行われた。筆

## 5. Dental Anesthesiology Research

山城三喜子

(日本歯科大学生命歯学部歯科麻酔学講座)

今回は、直前に東日本大震災が起こったために、様々な理由で参加できず、研究成果の発表ができなかった先生も多かったことと思います。日本からの参加者が少なかったせいか、コンベンションセンターが拡張されたせいか、同じく San Diego で 2002 年に開催された第 80 回 IADR 学術大会に比べて参加者が少なかったように感じました。

Dental Anesthesiology Research (DAR) Group は、以前にも紹介させていただきましたが、2000 年に IADR Scientific Group として認められ、2001 年 71 回 IADR 学術大会 (千葉) から DRA Group program を設けています。会員数はまだまだ少ないのですが、現在の AADR 所属の学生会員の多さからみて、関心を持つ若い研究者は多い領域であろうと思っています。今

大会では Keynote speech は行われませんでした。Oral Session で 6 題、Poster Session で 22 題、新たに設けられた Poster Discussion Session (PDS) で 7 題の発表が予定されていました。残念ながら日本からお二人の演者が参加できず、計 33 演題が発表されました。今回もやはり局所麻酔に関するものが最も多く、その他、痛みや不安感の評価、鎮静、全身麻酔に関するものなど、日本で歯科麻酔学の領域とされている広い範囲での研究成果が発表されました。PDS の形式はポスターによって図表などにゆっくと目を通したうえで、演者によりスライドを用いて要点が説明された後に質疑応答が行われるという形式で、理解しやすい点と討論しやすいという点で良い session であったと感じました。

DAR Group では、Barcelona での group business meeting で、今回の 89 回 学術大会から “IADR DAR Septodont Young Investigator Prize for Innovation” を設けることが決定されました。この賞は賞状と賞金 US\$1000 とからなります。対象者は大学院生までの学生です。今回の大会では本部を通しての公表ができませんでしたが、次回の IADR 学術大会 (2012, Rio de Janeiro) の抄録受付期間中に、on-line の抄録提出段階で awards section 中の “IADR DAR Septodont Young Investigator Prize for Innovation” を選択することで応募できます。今回の受賞演題名は、“Comparative study of efficacy of anesthesia on lower molars” でした。歯科麻酔関連の研究をなさっている若い研究者の方々の応募をお待ちしています。

また、歯科麻酔領域の研究に興味のある先生は是非 DAR Group の会場にお立ち寄りください。

## 6. Prosthodontics Research

新保 秀仁

(鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座)

震災にて被災した皆様にお見舞い申し上げるとともに一日も早い復興をお祈り申し上げます。

アメリカのカリフォルニア州サンディエゴにて 3 月 16 日から 19 日まで開催された第 89 回 IADR 学術大会に参加しましたのでご報告させていただきます。3 月のサンディエゴはやや寒暖差はあるものの、ハーバーを一望しながら散歩するには快適な気候でした。また同じカリフォルニア州でもロサンゼルスとは違い、国境でもあるメキシコの文化がどこことなく感じられる町でした。

今回の IADR の Prosthodontics Research セッションでは口演発表 38 演題、ポスター発表 115 演題、計 153 演題でした。補綴に関連する Dental Materials Research セッションを含めると計 293 演題 (withdraw も含む) であり、そのうち日本からは 27 名の先生方が発表されていました。初日には Frechette Award competition が行われました。Biological Science 部門においては 3 名とも日本の先生であり、大阪大学歯学部顎口腔再建学講座

の福安 翔先生と萱島浩輝先生の 2 名の大学院生、カリフォルニア大学の Dr. Y. Sugita が Finalist として選出され、とても興味深い研究成果を発表されていました。近年では Frechette Award competition に日本の若い先生が Finalist として選出されるだけでなく Winner にも選ばれています。若い補綴医にとって IADR で Frechette Award を受賞することは自信となり、今後の研究における質の向上にもつながっていくと考えられます。次回、ブラジルのリオデジャネイロにて行われる IADR でも、日本から Winner が選出されることを期待します。

当講座でも行っている熱可塑性樹脂に関する研究が発表されていたので紹介します。Tannous らはアセタルクラスプおよび 2 種類のポリエーテルケトン (日本ではまだ厚生労働省薬事法承認を得ていない) の維持力をアンダーカット (0.25 mm, 0.5 mm) やクラスプの厚み (2.0 mm, 3.0 mm) を変化させ計測し、Co-Cr 製クラスプと比較していました。2 種類のポリエーテルケトンの維持力およびアセタルクラスプは Co-Cr より小さな値を示しましたが、15,000 回の着脱後、熱可塑性樹脂は Co-Cr と比較して維持力の減衰が少なかったとしています。また Kumbuloglu らも同様にポリアミド系の熱可塑性樹脂を用いて、着脱を繰り返した後の維持力を Co-Cr と比較し、維持力の減衰が少なくと報告しています。これらの結果から、熱可塑性樹脂は長期間使用しても、安定した維持力が得られることを示しました。熱可塑性樹脂に関しては当講座を含め、6 演題の発表がありました。日本ではノンクラスプデンチャーと称され、審美性に優れる義歯として、その臨床応用は増加しています。しかし、科学的な根拠に乏しいまま使用されているのが現状であり、海外からの報告も踏まえて、適切な設計方法、適応症の選択が早急に確立されることが望まれます。各会場で活発な Discussion が行われていました。同じ専門分野の先生方だけでなく、異なる分野の先生方からもお話を聞ける機会があり、情報交換の場として非常に有益であったと感じています。最後になりますが、今回は東日本大震災の直後に開催されたことから、アメリカでもニュースや新聞で毎日のように日本の震災について報道されており、気が重くなるばかりでした。しかし日本人とわかるとたくさんの方の海外の先生方、スタッフの方々から暖かい言葉を頂戴し元気づけられたことをご報告させていただきます。

## 7. Saliva research / Network for Practice-based Research

角館 直樹

(京都大学大学院医学研究科医療療学分野)

この度、アメリカ西海岸、サンディエゴの San Diego Convention Center にて開催されました第 89 回 IADR に参加いたしました。九州歯科大学の柿木教授からご推薦いただき、参加報告をさせていただく機会をいただきました。私は柿木教授と現在共同研究をしている口腔乾燥症に関する研究分野

と私自身で研究を進めている Practice-Based Research Network に関する研究分野を中心に参加いたしました。

最初に口腔乾燥症、いわゆるドライマウスに関する研究は、近年盛んになっており、基礎研究に関しては多分野から多くの研究成果が発表されていました。一方で、臨床研究に関しては、これまでにあまり行われておりませんでした。本学会では薬剤とドライマウスとの関連性を検討する探索的研究も発表されておりました。また、ポスター発表されていた Dr. Daniels らの Systematic review から、現時点で有効なドライマウスの介入方法は明らかではないことも示唆されており、全体を通して、今後本領域に関して多方面からアプローチが開かれる予感を抱きました。

このような状況から鑑みますと、高齢者の多い我が国でドライマウスに関する大規模研究を行い、その真のリスク要因を明らかにし、有効な介入方法を開発することで世界に先駆けてガイドラインを作成することはとても重要であると思われました。柿木教授をはじめとした我が国での研究成果の発表が待たれるところです。

次に、Network for Practice-based Research に関する発表に参加いたしました。これは、新しい学問領域です。米国では NIH の主導のもと、開業医を中心とした Dental Practice-Based Research Network (Dental PBRN) を構築しました。その中で、米国アラバマ大学を中心としたネットワーク「DPBRN」はとても活気があり、同ネットワークから 14 の発表がなされました。同ネットワークでは、「修復物の再治療に関する研究」や「患者満足度に関する研究」などを中心として、とても興味深い研究が多数行われておりました。私は以前より交流のある DPBRN・Network Chair のアラバマ大学歯学部 Gilbert 教授とお話し、「診療を改善し、口腔内の健康を増進するために Practice-Based Research は重要であり、他の国でも Practice-Based Research Network が形成されることは、国際比較をすることを可能にし、大変有意義なことである。」と伺いました。なお、筆者らが立ち上げた Dental PBRN Japan (JDPBRN) も、アラバマ大学と国際共同研究を始めることとなり、我が国での Practice-Based Research の促進に貢献したいと考えています。最後になりますが、学会開催中に起こった東北関東大震災に関しては、会場より心を痛めておりました。一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたしております。簡単ではありますが、第 89 回 IADR の参加報告とさせていただきます。

## 8. Mechanisms Controlling Osteogenesis

塚崎 雅之  
(昭和大学歯学部 5 年)

2011 年 3 月 16 日から 4 日間にわたり、アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴにて第 89 回 IADR が開催された。私は昨年一年間、放課後や夏休みを中心に昭和大学歯学部口腔生

化学教室の先生方に研究をご指導頂き、Mechanisms Controlling Osteogenesis のセッションで口演発表する機会を得た。初めての学会で慣れない英語での発表という事もあり、二日目の自分の発表が終わるまではとても人の発表など見る余裕がないと思っていたが、会場となった San Diego Convention Center の大きさ、貼られているポスターや来場者の数など、全てが自分の予想を遥かに上回る規模であり、緊張すら消えうせる程の感動の連続であった。

同セッションでは 6 題の口演発表があり、日本からの発表は私だけで、後は米国の大学の研究者が多く、活発に討論が行われていた。発表はノックアウトマウス、トランスジェニックマウスによるものが多く、内容やデータの美しさもさる事ながら、発表の仕方、スライドの作り方、質問への答え方など多くの事を学ぶことができた。発表の形式も Power Point 一辺倒でなく、keynote を用いて Steve Jobs のように熱く発表している研究者も見かけて、海外の学会の自由な空気を味わうことができた。

自分の発表が終わってからは、企業のブースで貰いすぎた歯磨き粉で異常に重くなった IADR バッグを下げ、タイムテーブルを睨めながら広大な Convention Center をへトへトになるまで歩き回り、臨床・基礎を問わず興味のある演題を多数聞くことができた。特に、マウスを用いた in vivo の実験で、BMP の濃度が高すぎると非常に不安定な骨が誘導される事を、組織形態学的・生化学的に丁寧に分析していた UCLA の大学院生の発表は、英語でも分かりやすく、私にとっては非常に良い刺激となった。

今回、学生という立場でありながら世界規模の学会に出席させて頂き、新しい知見を得たと同時に海外の研究者と触れ合えた事は、今後自分がどのような歯科医師になりたいかを考える上でも、素晴らしい財産となった。3.11 の未曾有の災害の直後に行われた本学会では、私が日本人という事が分かるに至る所で心配して頂き、様々な国籍の先生方から多くの励ましのお言葉を頂いた。Opening Ceremony が、IADR President の日本に対する温かいメッセージで幕を開けたことも忘れることはできない。世界で活躍する一流の先生方は研究内容だけでなく、物腰や雰囲気まで素敵ならばかりで、深く感銘を受けた。本学会で得た多くの刺激や感動を忘れず精進し、いつかまた IADR で発表したいと思う。末筆にあたり、このような機会を与えて下さった、昭和大学歯学部口腔生化学教室の上條竜太郎教授ならびに直接研究をご指導頂いている山田篤先生にこの場を借りて深謝したい。

## 9. Mineralized Tissue

鈴木 大  
(昭和大学歯学部口腔生化学教室)

アメリカの San Diego で開催された第 89 回 IADR に参加い

たしました。3月11日の東北関東大震災から数日と間もなく、搭乗案内を待っている間にも大きな余震があったため、まず飛行機が無事飛ぶのかという不安が大きかったことを覚えています。また、新設されたはずの羽田国際空港の天井に一部破損も見られ、今回の地震がどれ程のものであったのかを改めて痛感させられました。しかし、そんな心配は杞憂となり、会期中の日本や家族を思いながら、無事に Los Angeles 経由で San Diego へと到着しました。

会場は海沿いの San Diego Convention Center という巨大な建物で、初めは会場内で迷うこともあり演題ごとの移動にも苦慮しました。初日の早い時間から参加したにも関わらず会場に到着した時にはすでに活気に溢れており、初めての IDAR への参加ということもあって、その規模の大きさに正直驚かされました。

さて、私も発表を行った Mineralized Tissue の分野では分子生物学的な解析が歯科・口腔領域の研究でも浸透し、多用されていると感じました。また Amelogenesis・Dentinogenesis の研究でも遺伝子改変動物を用いた解析が花盛りで、今後、臨床応用に向けて更にその速度は増していくことでしょう。ただし、BMP, MSX, WNT などの骨・軟骨代謝の分野で解析が進んでいる既知の遺伝子を応用したものも多く、歯の硬組織においても分かっている key player は限られており、私も含めて更なる breakthrough の必要性を実感しました。全体の印象としては、欧米勢もさることながら中国・韓国を中心としたアジア勢の勢いも感じ、日本も負けては行けないとモチベーションが上がりました。私自身は「Essential Role of RalGAP1 during Limb and Skeletal Development」というタイトルでポスター発表を行いました。さらに研究を進め、機会があればまたいつか発表したいと思います。

最後に、San Diego でお会いした方々は皆親切で、日本から来たと説明すると全員が心配してくださり、セレモニーやレセプションのスピーチでも第一声はその話題であったことが大変印象的でした。しかし帰りの Los Angeles 空港で義援金詐欺注意のアナウンスが流れているのを聞いたときは、とても心が痛みました。僭越ながらこの場をお借りして、被災された皆様の救済と、被災地の一日も早い復興心よりお祈り申し上げます。

## 10. The 89th IADR GENERAL SESSION (San Diego, CA) に参加して

吉村 健太郎

(昭和大学歯学部口腔生化学教室)

2011年3月16-19日に於いてアメリカ合衆国サンディエゴで開催された第89回 IADR 総会に参加いたしました。折しも3月11日に発生した東日本大震災の混乱の中、日本を離れるのは非常に不安でしたが（実際、離陸直前に大きな余震に見舞われ離陸できるのかと心配しました）無事にロサンゼルス

経由でサンディエゴに到着しました。サンディエゴはカリフォルニア州の最南端でメキシコとの国境に面し、人口が約122万人（さいたま市と同程度）と全米で7位、カリフォルニア州ではロサンゼルスに次いで2番目に大きな都市です。我々が到着したのは現地時間で3月15日深夜でした。ホテルに到着してテレビのスイッチを入れると、深夜にも関わらず多くのニュースチャンネルが『JAPAN CRISIS』と題したニュースを繰り返し放送していたのを覚えています。一夜明けて、学会会場である San Diego Convention Center に到着すると、大会初日のしかも早朝にも関わらず非常に多くの参加者で活気に満ちており、IADR の規模の大きさと参加者の関心の高さに圧倒されるばかりでした。

IADR の大会に出席するのは初めてで右往左往していましたが、プログラムによると『NEW MEMBER ORIENTATION』というセミナーがあると知り、その部屋に座って始まるのを待っていると年配の女性に『あなたたちは日本人?』と話しかけられました。東京から来た、という『日本の地震の事を知っています。あなたたちは大丈夫でしたか? 私はブラジルから来ました。ブラジルには日系人が多いので今回の地震についてとても心配しています』と話し『日本はきっと立ち直るから、頑張ってください』と去っていきました。なんて親切なんだ、さすがアメリカは違う、などと話しているとセミナーが始まり、登壇してきたのは先ほどの女性で『みなさん IADR へようこそ。President の Maria Fidela de Lima Navarro です』と挨拶されました。我々に話しかけてくれたのは IADR President の Navarro 先生だったのです。セミナーの後、一緒に記念写真をお願いしたところ、快く応じて下さり『次はブラジルに来てね』とたいへん優しい方でした。さらに、その日の夜に開催された Opening Ceremonies でも、開会の挨拶に先立って日本の震災に対する哀悼のスピーチがあり、IADR の方々が日本を心配する思いの強さに感動しました。

私は今回、炎症反応における軟骨細胞の代謝に関する演題を発表しましたが、全体としては歯周病、カリオロジー、バイオマテリアル系などの臨床に即した研究が多く、ちょうど EBM を逆にしたような『臨床で必要とされる事を基礎にフィードバックした研究』に対して参加者の関心が高いようでした。また、インプラントのセッションはやはり多くの聴衆が詰めかけていましたが、歯髄や発生などの演題も活発に討議されていました。今回は San Diego で開催されたため米国の参加者がもちろん多かったのですが、南米・ヨーロッパ・アジアからの演題も多く、特に中国のパワーは非常に強く感じました。私も日本勢の一員として、今後さらに自分の研究を進展させ（臨床にフィードバックすることが何より大事だと痛感しました）発表できるように努力したいと思います。

最後に、San Diego の人々はホテルやレストラン、ショップのスタッフ、タクシーのドライバーなど会う人が皆口を揃えて『日本は大丈夫か』と東日本大震災の心配をし、去り際には『がんばれ』と言ってくれました。未筆ながら被災された方々

に謹んでお見舞い申し上げます、被災地の日も早い復興を心よりお祈りいたします。



左から、Christopher H. Fox 先生 (IADR/AADR Executive Director), 塚崎雅之君 (昭和大学歯学部5年), 私, Maria Fidela de Lima Navarro 先生 (IADR President), 鈴木大先生 (昭和大学歯学部口腔生化学教室)

## 11. Motor Function, Biomechanics, and Behaviors

渋川 義宏

(東京歯科大学口腔健康臨床科学講座)

第 89 回 IADR General Session は、2011 年 3 月 16 日から 19 日にかけて、アメリカ・カリフォルニアのサンディエゴで開催された。IADR 学会直前の東日本大震災の影響により、急遽、日本からの学会参加をとり止めた方が多かったと聞いた。交通が混乱するなか、なんとか成田空港にたどり着き、余震がまだ続く中での出国であった。アメリカに到着すると、現地のニュースでは 1 日中、震災の状況を放映しており、甚大な被害の様子が徐々に明らかになり、大変、心が痛んだ。震災で失われた幾多の尊い命に哀悼を意を表し、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

今回、私の研究グループがポスター発表の機会を得た Motor Function, Biomechanics, and Behaviors のセッションをレポートする。本セッションは全部で 13 題、顎関節症に関する演題や、ブラキシズムと脳波との関係、咬合異常と記憶との関係、Orexin ノックアウトマウスを用いた食欲と運動活性、などの口腔機能と脳との関係に着目した演題が発表され、どの演題も非常に興味深いものであった。L. Zhang らのグループ (日本大学松戸歯学部) は、関節リウマチ (RA) の治療として使われている低出力レーザー療法 (LLLI) のメカニズムを II 型コラーゲン誘導関節炎 (CIA) モデルラットの膝関節滑膜を用いて分子生物学的に詳細に解析した。まず、CIA ラットの滑

膜では、DNA microarray 解析より、IL-1 $\beta$ 、ICAM-1 が増加していることを示した。次に、CIA ラットの膝関節滑膜に Ga-Al-As ダイオード低出力レーザー (830nm) を照射することによって、IL-1 $\beta$ 、ICAM-1 が減少することを示し、顎関節における関節リウマチにおいてもこれらの遺伝子が関与しているのではないかと結論づけられ、今後、関節リウマチの病態のさらなる解明と治療法の発達が期待される非常に興味深い発表であった。咬合異常に関する演題では、ラットの臼歯抜歯による記憶の忘却モデルにおいて、空間トレーニングは長期の記憶維持に有効であることを示し、大変、貴重なデータを発表されていた (原ら、岡山大)。前回、スペイン・バルセロナで開催された第 88 回 IADR 学会に比べると、震災の影響もあって、全体として参加者が少ないように感じられた。サンディエゴコンベンションセンターは空港からタクシーで 15 分位の場所にあり、帰国も大変、スムーズであった。今回のセッションを含めて、世界中の質の高い研究報告を聴講し、大いに刺激と感銘を受けた。本学会で得た多くの知識と経験を今後の研究にいかし、発展させていきたいと思う。

## 12. Sarnat Award Competition に参加して

松村 香織

(九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座  
顎顔面腫瘍制御学分野)

第 89 回 IADR 総会は 2011 年 3 月 16 日から 18 日の 4 日間にわたり、米国カリフォルニア州のサンディエゴで開催されました。私は、Sarnat Award Competition に参加させていただきました。本賞は IADR Craniofacial Biology Group が若手研究者を顕彰する目的で設けた賞です。事前に提出された抄録をもとに 8 名の Finalist が選出され、審査員を前にしたポスタープレゼンテーションおよび質疑応答の内容から最終結果が決定されます。今回私は、Sprouty2 controls the palate mesenchymal cell proliferation via FGF signaling というタイトルで、FGF シグナルのネガティブフィードバック因子である Sprouty2 の遺伝子欠損マウス胎仔における口蓋裂発症機序に関する発表を行いました。口蓋裂発症機序に関してはこれまでに様々な報告がありますが、私は Sprouty2 遺伝子欠損マウスの胎仔では口蓋突起挙上前の口蓋間葉細胞の増殖が亢進しており、口蓋突起の挙上が阻害されることで口蓋裂を発症することを明らかにしました (Biochemical and Biophysical Research Communications 404:1076-1082)。その研究をもとに発展させた結果で今回の IADR Sarnat Award Competition に挑みました。プレゼンテーションは審査員の先生方 3 名と発表者 8 名で行われ、英語による 10 分間の発表とその後 5 分間の質疑応答で評価されました。審査員からは口蓋器官培養の方法や実験結果について多数の質問とアドバイスを頂きました。他の参加者の発表においても活発な討論が行われました。最終審査の結果、受賞は



逃しましたが、多くの専門家から今後の研究に関する助言を頂き、非常に有意義な学会発表となりました。今後の研究生生活における1つの糧として、さらに研究を発展させるべく努力する所存です。

最後になりましたが、研究を指導くださいました九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野の中村誠司教授および武富孝治先生に心より感謝いたします。また、研究にご協力いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。

## 13. Salivary research

田中 昭彦

(九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座  
顎顔面腫瘍制御学分野)

今年度の IADR はアメリカの西海岸にあるサンディエゴという港町で開催されました。3月中旬でしたが、日中の日差しは強く、暖かい気候でした。しかし、東日本大震災の直後ということもあり、日本人の参加者は当然のことながら少ないように感じました。

今回の東北関東大震災について、アメリカでの報道の扱ひも凄まじいものがありました。テレビや各新聞などは、3月11日の発生からほぼ1週間以上、連日のように1面には震災特集が組まれていました。被害の惨状や原発の速報など、ほぼ日本での報道と変わらぬボリュームと速報性です。また、耐震性に関して日本の建築技術の高さや、日本人の災害時の対応（おちついてパニックを起こさない気質）などに関する記事も多く、地震発生から3時間以内に日本の暴力団が被災地に救援物資をトラックで届けたと記事もあり、様々な関心と呼んでいました。関心が強かったのはメディアだけではありませんでした。現地の人々からも震災の直後ということもあり、やはり至る所で、お悔やみの言葉や日本人の気質に関して賞賛の声をいただきました。

さて、今回の IADR において私は Salivary research のセッションでポスター発表の機会を得ました。IADR への参加は前回のバルセロナに続き2回目でしたが、ポスター会場の大きさは毎度驚くばかりです。ポスターの総数が約3600題、それを3日に分けて掲示するので1日だいたい1200題。さらに70社もの企業展示、中央には Hatton Award 最終選考者のポスター展示ブースなど、今まで参加したことのある学会とは比べものにならない規模でした。また、展示してあるポスターの前では発表者との活発な討論がいたるところで行われていました。私が発表した Salivary research のセッションでは会期中、口演発表19題、ポスター発表54題、計73演題の発表がありました。このうち日本からの演題数は4題でした。発表内容としては、実際の唾液中の細菌層を検出していたものや、唾液中の電解質の組成に注目したもの、唾液腺腫瘍、カンジダ

症をテーマにしたものなど様々な内容のものが発表されました。私は今回、ミクリッツ病とシェーグレン症候群の相違点についてヘルパー T 細胞から主に産生されるサイトカインの発現様式の違いについて報告しました。

世界中の質の高い研究報告を聴講し、大いに刺激と感銘を受けた。本学会で得た多くの知識と経験を今後の研究にいかし、またいつか IADR で発表したいと思います。

## III. IADR Council Meeting 報告

JADR 会長 村上 伸也

(大阪大学大学院歯学研究科  
口腔分子免疫制御学講座口腔治療学分野)

IADR 2011 Council Meeting は第89回 IADR 学術大会開会式前日の午後(3月15日(火)13:00)に、Hilton San Diego Bayfront, Indigo Ballroom で開催され、各 Division と Scientific Group の代表、および FDI, Federation, Section からの Observer が参加した。日本からは、東日本大震災により、高橋副会長、山崎会計担当理事が欠席となり、村上会長が出席した。審議された事項の概要を以下に記載する。

以下の事項が報告・決定された

- 1) IADR Vice-president に Helen Whelton(University of Cork, Ireland) が選出された。同時に今回の投票率の資料が示された。全体の平均は31%、JADR は25%であった(過去のほとんどの場合、JADR の投票率は20%台)。過去のほぼ全てのケースで、選出された候補者が所属する division の投票率が最高であることが示されている。
- 2) 北米を除き、全ての region で会員数は増加し2010年には12,434名に到達した。
- 3) バルセロナ大会は成功裏に終了し、surplus は\$400,000を越えた。
- 4) J Dent Res について以下の資料が示された。
  - ・5-year Impact Factor: 4.195 / ranked#1
  - ・2009 Impact Factor: 3.458 / ranked#2
  - ・投稿数 570(2009) から 802(2010) に増加
  - ・2010年に3回 invited editorials を発表(内2回は日本からの発表論文に対して)
- 5) General session の開催予定地
  - 2012: Rio de Janeiro (Brazil), June20-23
  - 2013: Seattle (USA),
  - 2014: Cape Town (South Africa)
  - 2015: Boston (USA)
- 6) 抄録投稿時に、該当する研究内容については IRB 等の承認を得ていることを求めることが決定された。

- 7) Regional Development Program として, SE Asian Div, E&S African Div, Australia/New Zealand/Chile Div, Syrian Section の提案が採択された(総額 \$ 50, 000)。今後は, Final Report の提出が厳密に求められるものと思われる。
- 8) Vice President 候補者として, 以下の3名が決定された。
- ・ Yoshimitsu Abiko (Japan)
  - ・ Paul Brandt (South Africa)
  - ・ Angus Walls (UK)
- 9) 2011-2012 IADR Committee members が決定された。JADR からの委員就任は以下の通り。括弧内は任期。
- ・ Keiichi Ohya (Constitution Committee) (2014)
  - ・ Nobuko Maeda (IADR Distinguished Scientist Awards)
  - ・ Hiromasa Yoshie (Fellowship Committee)(2013)
  - ・ Tatsuji Nishihara (William J. Gies Award Committee) (2014)
  - ・ Shinya Murakami (Nominating Committee) (2014)
  - ・ Kiyoshi Ohura (Regional Development Committee) (2013)
  - ・ Yoshihiro Takano (IADR GlaxoSmithKline Innovation in Oral Care Awards Committee) (2014)
- 10) Pakistan section, Paraguayan Section, United Arab Emirates(UAE)section, Woman in Science Network が承認された。
- 11) 2016 IADR General Session の開催地がソウル (by KADR) に決定された。
- 12) IADR 予算案が承認された。
- 13) 尚, 年会費, 学会参加費は, 今後以下の通り上昇することが決定されている。
- ・ 年会費 2012 : \$ 120, 2013 : \$135  
(さらに, JADR 年会費が \$50 必要)
  - ・ 学会参加費 2012 : \$490, 2013 : \$500

#### IV. 第59回国際歯科研究学会日本部会(JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 高田 隆

(広島大学大学院医歯薬学総合研究科口腔顎顔面病理病態学)

- 会 期 : 2011 年 10 月 8 日 (土) ~ 10 月 9 日 (日)
- 会 場 : 広島国際会議場  
〒730-0811 広島市中区中島町1-5
- 大 会 長 : 高田 隆 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科口腔顎顔面病理病態学)
- 準備委員長 : 栗原 英見 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学)
- 内 容 : 特別講演、シンポジウム、  
ランチョンシンポジウム、ポスターセッション、  
展示、その他

特別講演およびシンポジウム :

◆特別講演 I 【10/8 (土) 11:00 ~ 12:00】

講演者 : Dr. Elizabeth Dianne Rekow (IADR President)

座 長 : 村上 伸也 先生 (JADR 会長, 大阪大学大学院歯学研究科 分子病態口腔科学専攻)

◆特別講演 II 【10/8 (土) 15:30 ~ 16:30】

講演者 : Dr. Seog Bae OH (Seoul National University, Korea, Lecturer from KADR)

座 長 : (未定)

◆特別講演 III 【10/9 (日) 10:45 ~ 11:45】

講演者 : 茶山 一彰 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病態制御内科学)

座 長 : 岡本 哲治 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子口腔医学・顎顔面外科学)

◆シンポジウム I 【10/8 (土) 9:00 ~ 11:00】

- 歯科医療の本質的な革新への新基盤技術 -

「Novel Infrastructure Technologies for Constitutive Innovation of Clinical Dentistry」

座 長 :

井上 孝 先生 (東京歯科大学大学院歯学研究科 臨床検査学)

加藤 功一 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科 生体材料学)

Speakers :

井上 孝 先生 (東京歯科大学 臨床検査学)

曾我 朋義 先生 (慶應義塾大学 先端生命科学研究所)

安孫子 宜光 先生 (日本大学松戸歯学部 生化学・分子生物学)

Sheng-Yang Lee 先生 (台北医学大学歯学部)

◆シンポジウム II 【10/8 (土) 16:30 ~ 18:15】

- 口腔機能制御とその基盤脳メカニズム -

「Brain Mechanisms Underlying Regulation of Oral Functions」

座 長 :

兼松 隆 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科 歯科薬理学)

入船 正浩 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科 歯科麻酔学)

Speakers :

兼松 隆 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科 歯科薬理学)

杉田 誠 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔生理学)

鍋倉 淳一 先生 (自然科学研究機構生理学研究所 生体恒常機能発達機構研究部門)

高田 昌彦 先生 (京都大学霊長類研究所 統合脳システム分野)

◆シンポジウムⅢ【10/9(日)9:00～10:45】

－上皮バリアーを介した宿主－病原体相互作用－  
「Host-parasite Interaction through Epithelial Barrier」

座長：

菅井 基行 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
細菌学)

高橋 一郎 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
粘膜免疫学)

Speakers：

菅井 基行 先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
細菌学)

古瀬 幹夫 先生 (神戸大学医学研究科 細胞生物学)

久保 亮治 先生 (慶應義塾大学医学部  
皮膚科・総合医科学研究センター)

本田 賢也 先生 (東京大学大学院医学系研究科  
免疫学講座)

## V. 安孫子宜光教授 IADR Vice President の候補者に推挙される

JADR 会長 村上 伸也

今般、JADR より、IADR Vice President へ推薦しておりました安孫子宜光教授 (日本大学松戸歯学部生化学教室) が IADR Nomination Committee および IADR Board of Directors の承認を経て、2012 年から 2013 年の Vice President の 3 名の候補者に推挙されました。正式な決定は、第 90 回 IADR 学術大会 (Rio de Janeiro) でなされることとなりますが、本年 8 月末より投票のメールが、IADR 全会員に送信され、11 月初旬頃に締め切られる運びになりますので、JADR 会員の皆様にあらかじめお知らせいたします。

安孫子先生におかれましては、2003 年～2004 年の JADR 会長を務められただけでなく、IADR Asia Pacific Region (旧 Pan Asia-Pacific Federation (PAPF)) の会長も同時に就任され、JADR の国際的なプレゼンスの向上において、多大な貢献と尽力をいただきました。また、2006 年～2009 年には IADR Regional Board Member としてご活躍され、国内はもとより、国外からも高い評価を得ております。JADR としましては、黒田敬之元 IADR 会長に次いで、Vice President, President, Immediate Past President としてご活躍いただきたいと考えております。

投票に関しましては、別途 Mail News などでお知らせしたいと考えております。JADR 会員の先生方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

## VI. 第 90 回 IADR 総会・学術大会 (Rio de Janeiro, Brazil) のご案内

第 90 回 IADR 総会・学術大会は、2012 年 6 月に Rio de Janeiro (Brazil) で開催されます。

JADR 会員の皆様の積極的な参加を期待します。

会 期 : 2012 年 6 月 20 日 (水) ～ 23 日 (土)

開 催 地 : Rio de Janeiro (Brazil)

演題登録開始 : 2011 年 9 月 9 日 (金)

演題登録締切 : 2012 年 1 月 13 日 (金)

## VII. IADR 会費の値上げについて

2012 年度より、IADR 会費が値上げされることとなりました。2011 年度は、正会員会費 \$ 105、学生会員 \$ 30、終身会員会費 \$ 22 でしたが、2012 年度より以下のようになります。

< 2012 年度会費 >

	正会員 (Member)	学生会員 (Student)	終身会員 (Retired)
IADR 会費	\$ 120	\$ 35	\$ 35
JADR 会費	\$ 50	\$ 10	\$ 0

なお、JADR 会費につきましては、従来通りのままで変更ございません。会員各位には誠に勝手なお願いで恐縮ですが、何卒ご理解いただけますよう、お願い申し上げます。本件に関しましては、IADR より 2012 年度会費納入通知が届くことと存じますので、あらかじめご了承ください。

## VIII. お知らせ

JADR では、東日本大震災で被災した方々 (とくに被災により就学に困難を生じた学生等) への長期的支援を目標として、義援金制度を設けることを計画いたしております。会員の皆様には、近々、本制度の詳細についてお知らせいたします。何卒ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

## CONTENTS

I. IADR San Diego 大会を終えて		I. After the 89th IADR General Session in San Diego Dr. Shinya Murakami : JADR President	1
II. 第 89 回 IADR 学術大会 (San Diego) 大会報告	2	II. Reports of the 89th IADR General Session in San Diego	
1. 2011 IADR Distinguished Scientist Award (Pharmacology/ Therapeutics/ Toxicology Research Award) を受賞して	2	1. 2011 IADR Distinguished Scientist Award (Pharmacology/ Therapeutics/ Toxicology Research Award) Dr. Kiyoshi Ohura : Osaka Dental College	2
2. IADR/Heraeus Travel Award を受賞して	3	2. IADR/Heraeus Travel Award Dr. Hiroyuki Miyajima : Osaka Univ.	3
3. 2011 William J. Gies Award を受賞して ～ 歯学と医工学のコラボレーションによる学術融合 ～	3	3. 2011 William J. Gies Award Dr. Mirei Chiba : Tohoku Univ.	3
4. Craniofacial Biology 報告	4	4. Craniofacial Biology Dr. Akira Yamane : Tsurumi Univ.	4
5. Dental Anesthesiology Research	4	5. Dental Anesthesiology Research Dr. Mikiko Yamashiro : The Nippon Dental Univ.	4
6. Prosthodontics Research	5	6. Prosthodontics Research Dr. Hidemasa Shimpo : Tsurumi Univ.	5
7. Saliva research / Network for Practice-based Research	5	7. Saliva research / Network for Practice-based Research Dr. Naoki Kakudate : Kyoto Univ.	5
8. Mechanisms Controlling Osteogenesis	6	8. Mechanisms Controlling Osteogenesis Dr. Masayuki Tsukasaki : Showa Univ.	6
9. Mineralized Tissue	6	9. Mineralized Tissue Dr. Dai Suzuki : Showa Univ.	6
10. The 89th IADR GENERAL SESSION (San Diego, CA) に参 加して	7	10. The 89th IADR General Session (San Diego, CA) Dr. Kentaro Yoshimura : Showa Univ.	7
11. Motor Function, Biomechanics, and Behaviors	8	11. Motor Function, Biomechanics, and Behaviors Dr. Yoshihiro Shibukawa : Tokyo Dental College	8
12. Sarnat Award Competition に参加して	8	12. Sarnat Award Competition Dr. Kaori Matsumura : Kyushu Univ.	8
13. Salivary research	9	13. Salivary research Dr. Akihiko Tanaka : Kyushu Univ.	9
III. 2011 IADR Council Meeting 報告	9	III. Report of the IADR 2011 Council Meeting Dr. Shinya Murakami : JADR President	9
IV. 第 59 回 JADR 総会・学術大会開催のご案内	10	IV. Announcement of the 59 JADR General Session Dr. Takashi Takata : The Chairman of the 59 JADR General Session	10
V. 安孫子宜光教授 IADR Vice President の 候補者に推挙される	11	V. Call for votes for the IADR Vice President	11
VI. 第 90 回 IADR 総会・学術大会 (Rio de Janeiro, Brazil) の ご案内	11	VI. Announcement of the 90th IADR General Session in Rio de Janeiro, Brazil (2012)	11
VII. IADR 会費の値上げについて	11	VII. Raise of IADR Annual Due	11
VIII. お知らせ	11	VIII. Announcement	11

## ●編集後記●

2011年3月11日午後2時46分、IADR San Diego 大会を数日後に控えたあの日、三陸沖を震源とする M9.0 の巨大地震が起きました。震度6～7の激震、想像を絶する大津波、そして「想定外」といわれた福島第一原子力発電所の事故。死者・行方不明者は2万人を超し、いまだに多くの方が避難所や仮設住宅での先の見えない生活を余儀なくされています。IADR 大会への参加を断念せざるを得なかった先生方も多かったことと思います。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。——想定外の事象から新たな研究が始まるように、このようなときこそ思考停止することなく、未来を見据えた歯科医学の構築を目指すことが大切です。この震災は、身元確認における歯科医学の重要性や、被災地・避難所におけるオーラルケアなど歯科医療の重要性を再認識させてくれました。また、日本が世界のかげがえのない一員であることも示してくれました。この難局を糧に、日本の歯学研究の発展や国際化をさらに進めていきましょう。(√1)

発行 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jadr/index.html>

連絡先: 〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

アカデミック・スクエア (株) 内 TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773

JADR 副会長 高橋 信博 (東北大学大学院歯学研究科口腔生物学講座口腔生化学分野)

連絡先: 〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 4-1 FAX: 022-717-8297

2011年9月1日 発行